

< 放射線科だより >

◎骨粗鬆症って？

骨粗鬆症とは、「骨が弱くなって、骨折しやすくなる」ことを言います。

骨の強さは骨の量(骨量、骨密度)と骨の質(骨質)で決まります。骨粗鬆症は骨量減少・劣化によって骨がもろくなった状態です。

骨粗鬆症で最も問題になるのは骨折です。

なかでも背中や腰の骨が潰れてしまう椎体骨折、圧迫骨折は背中や腰が曲がる大きな原因になります。

◎どうやって調べれば？

骨密度の測定は、骨粗鬆症や骨折のリスクを判定するのに役立ちます。

骨密度の測定はいろいろな方法があります。

・QUS 法(超音波法) 踵(かかと)の骨に超音波を当てて骨の吸収差を検査します。

骨の吸収差を測定して検診目的に用いられます。

・MD 法 X 線フィルムの上に両手とアルミニウムをのせて撮影します。

アルミニウムの濃度を比較して測定します。

・PQCT 法 小型 X 線 CT 装置の中に手を入れて測定します。

単位容積当たりの骨密度(g/cm)を調べます。

・DXA 法(デキサ法) 専用のベッドに仰向けになり腰椎と大腿骨を測定します。

骨に2種類のX線を当てて、主に腰椎と大腿骨を撮影し骨を通過できなかったX線の量をコンピューターで解析します。

* 当院ではこの中でも最も精度の高い DXA 法の骨密度装置を使用して骨密度を測定しています

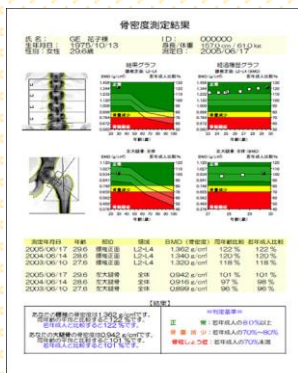


◎検査時のお願い

計測に影響を与える場合がある時は、検査前に着替えていただく事があります、影響を及ぼすものは、ブラジャー、ボタン、シップ、カイロ等が挙げられます。

検査時は装置が動きますので、体は動かさないようお願いします、息止めの必要もなく寝た状態で検査を受けることができます。

←測定結果はこのような用紙に印刷してお渡し致します。
前回骨密度を測定した結果もグラフに表示され比較できます。



その他、検査に関して不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください。